



## 上伊那支部発 ～上伊那支部の活動を報告します～

平成 22 年 10 月 27 日（水）伊那合同庁舎講堂において「地域づくりフォーラム」を開催しました。  
このフォーラムは、上伊那地方事務所と当支部の主催事業で、支部会員だけでなく、各地域で活動されている「地域づくり団体」の方々など 60 名の参加がありました。

その概要は以下のとおりです。

### 1. 平成 21 年度「地域発 元気づくり支援金」事業の優良事例表彰とその事例発表

県知事表彰を受賞された「第 1 回高遠ブックフェスティバル」のほか、上伊那地方事務所長表彰 3 事業の表彰式を行い、各表彰団体からは、それぞれの取組を始めるきっかけや背景、現状について、発表をしていただきました。



中沢地域づくり委員会の坂井さん

高遠ブックフェスティバル実行委員会の斉木さん



### 2. 当支部会員による活動内容の発表

「こまがね市民活動支援センター」 事務局長 宮澤敏幸さん（平成 21 年度加盟団体）

◇平成 20 年 7 月に制定された「駒ヶ根市協働のまちづくり条例」により、行政と対等なパートナーとして新たな公を担う市民団体やその活動を支援するため、平成 21 年 10 月に「こまがね市民活動支援センター」が設置された。

◇「こまがね市民活動支援センター（愛称：ぱとな）」は、公設民営により運営されており、市民活動の拠点としてさまざまな活動を支援している。

◇このたび一周年を迎えるが、今後は積極的に外へ出て、市民活動の希望や悩みなどを聞く「御用聞き」としての事業も展開していきたい。



フォーラムには、支部会員以外にも多くの地域づくり団体などの参加をいただき、上伊那地域の地域づくりに対する意識をより高めることができました。

上伊那支部は、今年度 2 団体が加入し 16 団体で構成されています。今後も、上伊那地域の地域づくり活動が元気になるよう、取り組んでいきたいと考えています。

## 大北支部発 ～大北支部の活動を報告します～

地域づくりネットワーク長野県支部協議会大北支部からは、「交流見学会」の様子と、「大北地区地域づくり事業成果発表会」を紹介します。

### ○ 交流見学会

この交流見学会は、6月6日（日）大町市内の農具川において、大北地域内で地域づくりに取り組む皆さんのネットワークづくりと新規会員の募集を兼ねて初めて開催しました。



当日は、地域づくりネットワーク長野県支部協議会大北支部の会員のほか、今年度の地域発 元気づくり支援金活用団体からも参加していただき、支部会員の農具川環境美化委員会による農具川河川敷のアヤメ・ツツジ植栽の取り組み状況を見学しました。

両岸約2 kmにわたってアヤメやツツジなどが植栽されている現地で、同会の猪又事務局長からこれまでの活動の経過や苦労した点をお話いただきました。

また同会は、ホタルの育成や環境省から絶滅危惧II類に指定され、長野県天然記念物にも指定されているカワシンジュガイの保護に取り組まれており、貴重な貝を実際に見せていただきました。



好天に恵まれ、水辺の爽やかな風とアヤメやツツジが咲き誇る中を気持ちよく散策し、会員同士の交流を深めました。

### ○大北地区地域づくり事業成果発表会

11月13日（土）大町合同庁舎講堂において、北安曇地方事務所と当支部の共催により開催されたこの発表会では、昨年度に「地域発 元気づくり支援金」を活用して実施された事業のうち、モデル性や他への波及効果が特に優れている事業が知事及び地方事務所長から表彰され、それぞれ事業成果を発表しました。



当支部の会員では、農具川環境美化委員会の事業が地方事務所長表彰を受け、これまでの植栽活動や新たな試みとなるアヤメの草木染めについて発表しました。



この他に、地域再生診療所所長の井上弘司氏による講演も開催しました。

支部会員をはじめ多くの地域づくり団体の参加のもと今後の活動に向けたヒントや情報を得ることができ、有意義な発表会となりました。

**地域発 元気づくり支援金長野地域活用事例発表会にあわせ会員募集&優良活動事例の視察を行いました！**

平成22年10月31日(日)  
長野市生涯学習センターで開催された『「地域発 元気づくり支援金」長野地域活用事例発表会』において香山篤美(NPO 法人夢空間松代のまちと心を育てる会)長野支部長が地域づくりネットワークの紹介、支部活動の入会案内・参加をPRしました。当日は、支部会員参加のもと優良事例の発表やJR長野駅前広場で開催されている「ながのウェルカムガーデン」を同実行委員会の案内により視察しました。



**「地域の宝を活かす農業&ビジネスセミナー」に参加しました！**



平成22年11月5日(金)長野市内のホテル国際21で長野地域地域資源活用・農商工連携に係る事業推進連絡会議と「地域の宝を活かす農業&ビジネスセミナー」を開催しました。

当日のパネルディスカッションには、当支部会員の西澤てる(味ロジックわくわくさかき会長)さんがパネリストとして参加し「地元産の野菜にこだわった加工品のラベルデザイン、商品のネーミングを信大生に考案いただき、消費者

の購入意欲がわく商品開発ができ良い経験ができた」などと、その取組について話されました。また、広島県三次市の(有)平田観光農園代表取締役会長 平田克明氏による基調講演(「地域の特色、特産品を活かすビジネス展開」)や「地域資源の特徴を活かし、新発想からの農業&ビジネス。そして長野地域の潜在能力」をテーマにしたパネルディスカッションが行われ有意義なものとなりました。

## 第28回地域づくり団体全国研修交流会青森大会

平成22年11月11日(木)から13日(土)まで青森で開催された「第28回地域づくり団体全国研修交流会青森大会」に参加された大町市市民活動サポートセンター所長の市河千春さんに感想を寄せていただきました。

「第28回地域づくり団体全国研修交流会青森大会に参加して」

大町市市民活動サポートセンター  
所長 市河 千春

全国各地の地域づくり活動に携わる関係者が一堂に会して情報交換を行い、地域づくり団体のネットワークの充実を図るとともに地域住民の主体的な地域づくり活動の更なる活性化を推進することを目的とした、地域づくり全国研修交流大会が、11月11日(木)から13日(土)にかけ青森市を中心として開催され、全国から約300人が参加しました。

前夜祭では今話題のB-1グランプリに出場した「せんべい汁」「つゆ焼きそば」などがご当地グルメ屋台として会場に並び、また大間マグロの解体ショーや、「ラッセラーラッセラ」の掛け声のもと、県庁職員によるねぶたの踊り手(ハネト)の実演も行われ大変盛り上がりました。県民悲願の東北新幹線全線開業を目前に控えた皆さんの活気を肌で感じました。

分科会は青森県内15地区で開催され、「地域資源を活かした地域再生と協働のまちづくり」をテーマとする鱒ヶ沢町会場に参加しました。鱒ヶ沢町は北は日本海、南は世界自然遺産の白神山地を有する人口12,000人の自然豊かな町で、大相撲の舞の海が生まれた町です。歓迎セレモニーとして名物「イカの生干し」づくりを体験した後、町内5地区のまちづくり委員会との意見交換を行いました。田園風景を活かした「かかしの里づくり」や、白神山地の資源や素材を活かした「小さな産業おこし」など地域資源を活用した町内会の取り組みが紹介されました。

夜は町の温泉宿で、地元の皆さんと全国各地から参加した皆さんとの夜なべ談義に花が咲き、地域づくりへの熱い想いと新鮮な魚、美味しい地酒の効果により本音トークの交流が夜遅くまで続いたことは言うまでもありません。「井の中の蛙大海を知らず」ではありませんが、全国には熱い想いとパワーを持つ凄い人がいることを改めて知りました。この大会で知り得た情報や人々とのネットワークを大切に、今後の地域づくりに活かして行きたいと思います。



# アグリビジネス講座備忘録

地域づくりネットワーク長野県協議会事務局 相田

前回に続き、松本大学で実施されたアグリビジネス講座の内容についてご紹介します。主には松本大学が取り組んできた食を通じた地域連携です。

## コンビニとの連携「CUP DON」

みなさんはこの商品を目にしたことはありますか？期間限定でしたのでご存じない方も多いかもかもしれませんが、この「CUP DON」は松本大学とコンビニエンスストアのサークルKが共同開発した商品です。地産地消をしながら大学生が講義の合間に食べられるような手軽なお米を使った商品を作ったらどうか、という学生のアイデアを商品化したものです。



平成 19 年 1 月に第 1 弾「つくねぎ」（つくね、焼き鳥、松本一本ネギ）「ホワイト」「牛ネギデミソース」を開発し、2 週間で 8,000 食を販売したとのこと。第 2 弾は平成 20 年 4 月に「おCHA 漬け」「ちらし寿司」、「かきあげ」をこれも 2 週間販売。



平成 21 年 7 月の第 3 弾では、子育て支援をコンセプトに、300 人の母親からのアンケートを商品に反映させ、また阿南町の「鈴ヶ沢ナス」を活用するなど、多くの人たちを巻き込む形に発展しました。関わる人が多くなればなるほど「縁故買い」（関係者の購入）が増えていくなど、手応えは充

分あったようです。

どれも学生と開発担当者さんとの長い積み重ねがあり、コンセプトはしっかり（女性、若者、地産地消、健康など）練り上げています。

## 「松・小のつながりむすび」

松本大学と小諸商業高校が「コラボ」してできた商品で、コンセプトは高校生が「部活帰りに買いたい商品」。地域食材の「山浦ごぼう」と七穀米を使った、松本と小諸をつなぐお「むすび」として平成 22 年 2 月に 2 週間販売されました。



大学生と高校生、お互いの距離は近いようで案外遠いものですが、このポスターを見ていると楽しそうに商品開発している姿が目につかびます。

## 「おもてなし 20 品目御膳」

現在長野県では「信州DC（デスティネーションキャンペーン）」の真っ最中で、サークルKでは「信州DCおもてなしフェア」として県内 4 エリアで地域食材を使ったお弁当を製作しました。

中信エリアでは松本大学が監修し「山賊焼き」をメインに据えた「おもてなし 20 品目御膳」を 11/30~12/27 まで 550 円で販売しています。



地域食材をベースにした商品開発は多々ありますが、できる範囲からやってみる、ということの地道な繰り返しが必要だと思います。各地の取り組みに期待いたします！ <了>